



お城とレーザー

古賀 麻由子†

The Castle and Lasers

Mayuko KOGA†

兵庫県姫路市にある兵庫県立大学に異動して、早いものでもう10年が経ちました。来たばかりの頃は平成の大修理(国宝姫路城大天守保存修理工事)のためにすっぽりとカバーに覆われてしまっていた姫路城ですが、屋根瓦のふき替えと漆喰の塗り替えを経て、輝くばかりの白さとなって復活しています。春は桜、夏は青葉、秋は紅葉に彩られる姫路城は大変美しく、毎日眺めても見飽きることはありません。

先日の夜、いつものように姫路城に目をやりますと、その様に驚きました。なんとお城が紫色や青色、桃色と色を変え、さらにレーザービームを出しているのです。調べてみると、姫路城を光で演出するイベント(シロノヒカリ 白鷺が輝く夜)で、6色の光を使って天守閣を日替わりでライトアップし(城の光)、天守下の備前丸から白いレーザーサーチライトを空に向かって放つ(白の光)とのこと。

そういえば2013年に姫路で開催されたレーザー学会学術講演会第33回年次大会に現地実行委員として関わっていた際、姫路城をレーザーで照らすイベントが出来ないかという案が出たのを思い出しました。当時は「お城にレーザーを当てるなんて畏れ多い!」と却下されたのですが、実現していればこんなインパクトあるイベントになっていたんだらうと、幻想的を超えてサイバーな様相を呈した姫路城をしばらく堪能しました。

さて、新型コロナウイルスの発生により我々の生活様式は一変しました。会議や授業にオンラインツールが取り入れられ、対面での密な作業、密な議論は避けられるようになりました。人と人との接触が減ったことは寂しいことでもあり、対面で議論する機会が減ったことで効率が下がった部分もあります。しかし、良い面も無いわけではないと思います。特に国際会議へのオンライン参加が認められるようになったことで、場所と時間の制約を超えて参加できるようになったことは大変喜ばしいことです。これまで海外で開催される国際会議に学生を参加させるには渡航時間や旅費の問題をクリアしなければなりませんでしたが、オンライン参加という選択肢が出来たことで、参加へのハードルがぐっと下がりました。自宅に居ながらにして国際会議に参加し、最先端の研究成果に触れることができる、というのは、まさに兵庫県立大学が目指す「グローバルな視点」(国際的(グローバル)な視野と地元(ローカル)の視点で問題を捉える)を育む体験だと思えます。他にも、オンラインツールを利用することで、各自が都合の良い時に発言できるようになり、結果として研究室での議論が活発になりました。オンラインツールベースで議論することで内容がきちんと記録に残り、全員での情報共有がしやすくなる利点もありました。講義の際にも、WEBフォームを利用すると学生が気軽に質問しやすいようで、インタラクティブな講義作りに役立っています。大学では今年の春から基本的に対面授業となり、徐々にコロナ前の生活に近づきつつありますが、良い変化については残していきながら、教育研究を行っていきたいと考えています。

困難な時にあっても、人が歩みを止めることはありません。社会情勢も関係して、エネルギー問題はますます深刻化してきていますが、画期的な解決策となり得る核融合研究の分野では、大学と連携したベンチャー企業が次々と起業し、世界的に盛り上がりを見せています。特にレーザー核融合分野では、昨年8月にアメリカのNIF(National Ignition Facility)が加熱入力71%にあたる1.35 MJのエネルギー発生に成功し、大きな話題となりました。夢のエネルギーと言われる核融合ですが、もはや夢ではなく、現実のものになりつつあると考えていいと思います。私もレーザー核融合研究に携わる者として、少しでも貢献できるよう、より一層頑張っていきたいと思っています。

レーザーで、お城だけでなく、私たちの未来をも明るく照らしたいものですね。

† 兵庫県立大学大学院工学研究科(〒671-2280 兵庫県姫路市書写 2167)

† Graduate School of Engineering, University of Hyogo, 2167 Shosha, Himeji, Hyogo 671-2280